



Center for Statistics and Information
Rikkyo University

■ 2025年度

活動報告書

■ CSI Activity Report

立教大学 社会情報教育研究センター

2025 年度 活動報告書

April 2025 - March 2026

CSI Activity Report



目次 Contents

1	2025 年度の主な事業活動	3
2	各部会の事業計画および事業報告	6
1)	政府統計部会	6
2)	社会調査部会	10
3)	統計教育部会	14
3	資格支援事業	19
1)	社会調査士	19
2)	統計検定	21
4	教育支援事業	22
1)	正課科目の開発・提供	22
2)	各種コンテンツの開発および改修	24
5	研究支援事業	25
1)	調査研究コンサルティング	25
2)	対外連携活動	26
6	出版物	27
7	組織図および構成メンバー	28

1 2025 年度の主な事業活動

2025 年

4 月

- 1 日 社会調査士資格申請書類発送

5 月

- 8 日 社会調査士実習科目概要報告書・成果物・履修要項発送
- 8 日 統計検定ガイダンス（統計教育部会）
- 14 日 第 1 回 CSI センター運営会議
- 14 日 第 1 回 CSI センター連絡会議

6 月

- 2 日 社会調査士（キャンディデイト）資格・指定科目証明書申請受付（～6 月 16 日）
- 3 日 統計活用セミナー「経済系データを用いた Excel 入門」（講師：香川助教）
- 11 日 コンサルティング対応（経済学部教員）（池田助教）
- 12 日 第 1 回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの使い方・探し方～データアーカイブ活用法～」（講師：御手洗助教）
- 29 日 統計活用セミナー「地理情報と言語データの融合分析：geoNLP を用いた地域レビュー解析」（講師：小野原助教）

7 月

- 7 日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0091）（社会調査部会）
- 9 日 第 2 回 CSI センター運営会議
- 9 日 第 2 回 CSI センター連絡会議
- 9 日 コンサルティング対応（異文化コミュニケーション研究科教員）（小野原助教）
- 11 日 ニュースレター第 15 号発行
- 16 日 コンサルティング対応（異文化コミュニケーション研究科教員）（小野原助教）
- 16 日 コンサルティング対応（社会デザイン研究科院生）（小野原助教）
- 23 日 高大連携プログラム 立教女学院高等学校にて「データの利活用」に関する講義（講師：山口教授・安東助教・則竹助教）

8 月

- 6 日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科院生）（小野原助教）
- 7 日 統計教育セミナー「R によるデータ分析入門」（講師：東北学院大学准教授 渡辺健太郎氏）

9 月

- 3 日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科院生）（小野原助教）

- 19日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科院生）（小野原助教）
19日 コンサルティング対応（社会デザイン研究科院生）（安東助教）
24日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科院生）（安東助教）
25日 コンサルティング対応（学校・社会教育講座教員）（池田助教）
27日 CSI 統計活用セミナー「社会シミュレーションの研究に挑戦！（全6回）」（～11月22日）（講師：香川助教）
29日 社会調査士（キャンディデイト）および9月卒業生 指定科目証明書申請受付（～10月13日）

10月

- 1日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科院生）（安東助教）
3日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科院生）（小野原助教）
8日 第3回 CSI センター運営会議
13日 東温市受託事業（2026年度・2027年度）見積書作成・東温市へ提出
21日 環境学部社会調査士新設科目 社会調査協会と事前相談実施
22日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科院生）（安東助教）
23日 CSI 公開セミナー「生活満足度を左右する要因を探る：機械学習と統計手法の連携事例」（講師：総務省統計委員会担当室 齋藤恵一氏・黒岩美幸氏）
28日 コンサルティング対応（社会デザイン研究科院生）（池田助教）
28日 コンサルティング対応（社会デザイン研究科院生）（小野原助教）

11月

- 12日 第4回 CSI センター運営会議
12日 立教大学数理 AI データサイエンス教育プログラム ウェブサイト公開
13日 第2回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析①クロス集計と相関分析」（御手洗助教）
27日 第3回社会調査データ活用セミナー社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析②回帰分析」（池田助教）

12月

- 10日 第5回 CSI センター運営会議
10日 第3回 CSI センター連絡会議
10日 ニュースレター16号発行
11日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0090）（社会調査部会）
12日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科院生）（安東助教）
23日 コンサルティング対応（社会デザイン研究科院生）（小野原助教）
25日 コンサルティング対応（社会デザイン研究科院生）（池田助教）

2026 年

1 月

- 14 日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0093）（社会調査部会）
- 17 日 第 15 回社会調査フォーラム「差別研究を事例にとったサーベイ実験とフィールド実験の考え方」（講師：大阪大学人間科学部准教授 五十嵐 彰氏）

2 月

- 28 日 研究紀要『社会と統計』第 12 号発行

3 月

- 2 日 社会調査士資格 指定科目証明書申請受付（～3 月 16 日）
- 2 日 第 16 回統計研究会「『日本の公的統計・統計調査』に基づく 2020 年からの公的統計制度の変化」（講師：櫻本准教授）
- 11 日 第 6 回 CSI センター運営会議
- 11 日 第 4 回 CSI センター連絡会議
- 12 日 CSI 公開研究会「オルタナティブデータを利用した公的統計の予測・早期化に関する研究」（講師：総務省統計局統計調査部消費統計課情報解析係係長 鶴島元樹氏）
- 17 日 社会調査士資格 指定科目証明書発行日
- 19 日 社会調査士資格 申請書類提出日（～3 月 27 日）

2 各部会の事業計画および事業報告

1) 政府統計部会

2025 年度事業計画

(1) 統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

統計検定統計調査士対策本に位置付けられる「日本の公的統計・統計調査」、「統計調査士得点源問題集」、「公的統計の二次的利用に制度に関する学習コンテンツ」を適時改訂し、整備する。

(2) 統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

2025 年度は 2022～24 年度に構築したコンテンツの改修、メンテナンスを検討する。

管轄科目の範囲で、引き続き新規のオンデマンド構築がふさわしいものがあるかどうかについても検討する。

2022 年から 2023 年にかけて①～⑤を 3 つの授業の半オンデマンドコンテンツとして整理した。

- ① 公的統計学習コンテンツ Official Statistics Contents for Multi-user (すたまる)
- ② 公的統計総合学習コンテンツ Official Statistics Navigator (すたなび)
- ③ 将来人口推計コンテンツ Future Population Projection Contents (ポコ)
- ④ 経済波及効果分析コンテンツ Repercussion Effect Analysis Contents (リコ)
- ⑤ SPSS を利用したミクロ統計分析コンテンツ

(3) 地域における統計分析と紹介

2025 年度の受託について調査や報告書の作成といった大型のプロジェクトの予定はないが、地方自治体からの照会は時々受けている。受託は随時受け付けている。

(4) CSI 統計研究会・懇話会、講習会・講演会の開催

調査統計および加工統計の作成機関の担当者を招き、統計研究会を開催する。経済統計研究会の運用の依頼を受けて不定期で実施している。

また、統計利用とも関わる講習会・講演会を開催する。2019 年度に公的統計の二次的利用制度及び統計 GIS の利用が拡充されたことを受けて、これらの利用促進に重点を置く。

(5) 統計活用セミナー、統計検定受験の促進

データサイエンスの時代を迎えて多様なセミナーが求められるようになっている。部会メンバーのできることを整理し、時代に合ったセミナーを企画し、提供していく。またセミナーをオンデマンド化して、長期間利用できるようにする。

統計教育部会と連携し、学習意欲向上のため統計検定の受験への事業協力を行う。特に学部 1 年次に 3 級、2 年次以上で 2 級・統計調査士を勧める。また、本学学生の統計調査士試験の合格率を高めるため、部会コンテンツを使用して学生のための支援活動を実施する。本年度も、統計調査士対策セミナーを外部にも公開する。セミナーの一部をオンデマンド化する。

（６） 公的統計の二次利用制度の活用推進

統計法が改正され、データの利活用が一層促進されるようになった。いくつかの機関にサテライト機関が設けられている。これまで実施してきた取り組みとして、和歌山県のデータ利活用センター、統計作成（オープンデータも含む）実務者へのヒヤリングがある。これらの活動については継続して随時実施する。

本年度も引き続き、統計法改正にあわせて推進される公的統計の二次的利用制度（27 条・33 条申請、匿名データ利用、オーダーメイド集計）に関する紹介に重点を置く。実際に利用を試みるとともに、利用体験を収集し紹介する。統計法に基づく制度の利活用が広がっており、俯瞰するための情報収集も継続しておこなう。

2025 年度事業報告

(1) セミナー開催

◆CSI 統計活用セミナー

CSI 統計活用セミナーの目的は、公的統計の利活用について学習することである。25 年度は以下のセミナーを開催した。

講義内容：地理情報と言語データの融合分析: geoNLP を用いた地域レビュー解析

開催日時：6 月 25 日（水）3 限（13:25～15:05）

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：小野原 彩香（社会情報教育研究センター助教、政府統計部会）

参加人数：35 名

講義内容：経済系データを用いた Excel 入門

Part 1：Excel の基本を学ぶ Part 2：企業の財務比率を比較する

開催日時：6 月 3 日（火）17 時 10 分～19 時 10 分

場 所：池袋キャンパス 8501 教室

講 師：香川 涼亮（社会情報教育研究センター助教、政府統計部会）

参加人数：14 名

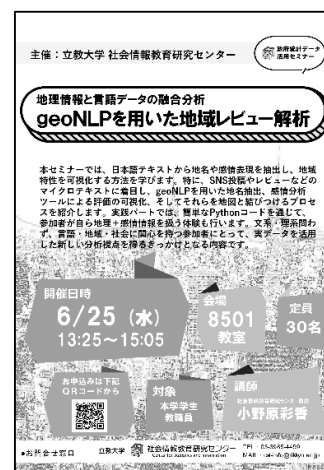
講義内容：社会シミュレーションの研究に挑戦！

開催日時：9 月 27 日、10 月 4 日、10 月 11 日、10 月 18 日、11 月 8 日、11 月 22 日（全 6 回）

場 所：池袋キャンパス 6 号館

講 師：香川 涼亮（社会情報教育研究センター助教、政府統計部会）

参加人数：7 名



統計調査士対策セミナー

統計検定統計調査士試験の対策セミナーとなる本セミナーは、2025 年度は CanvasLMS 上のオンラインコンテンツとして引き続き実施した。このセミナーは、2025 年 11 月に第 4 版が発行された最新版のオリジナルテキスト『日本の公的統計・統計調査』を使用した実践的なセミナーであり、CanvasLMS にて動画の配信を行った。過去問集も「得点源問題集」として改訂し 2024 年度に作成したものをアップして対策に使用した。

(2) 調査・分析の受託事業

今年度は調査研究の受託がなかった。水巻町からの受託は不調に終わった。一方、愛媛県東温市から 2026-27 年度の中小零細企業調査に向けた準備の調整が行われた。東温市から協力の依頼があり、国からの交付金を想定して受託の調整まではしたのであるが、26 年度に関しては予算が取れなかったため、受託はできない見込みとなった。

（３）CSI 統計研究会の開催について

統計研究会を年 1 回開催した。第 16 回は CSI が統計調査士向け対策として発行している「日本の公的統計・統計調査」の内容と統計調査士対策の現状を説明し、質疑を行った。議論が長引き、17 時近くまでかかった。3 月 3 日に JFE スチール福山事業所を 10 名で見学した。社員の説明を受けながら、1 時間ほどバスで事業所内をめぐり、製鉄は圧延作業を見させていただいた。スケールの大きな工場に一同驚いた。

〈第 16 回統計研究会〉

テーマ：『日本の公的統計・統計調査』に基づく 2020 年からの公的統計制度の変化」

開催日時：2026 年 3 月 2 日（土）15:45～16:30

講 師：櫻本 健（経済学部准教授）

場 所：福山大学社会連携推進センター 205 号室（オンライン同時開催）

共 催：経済統計研究会

参加人数：11 人

（４）既存の統計教育コンテンツを活用したオンデマンド授業およびセミナーの再編・整備

政府統計部会では、既存の統計教育コンテンツを活用したオンデマンド授業およびセミナーの再編・整備を推進した。

すでに既存のコンテンツを再編して「景気・格差問題と統計情報」のオンデマンド授業を 7 回実施している。これに加えて「統計情報で社会・経済を診断する」のオンデマンド授業は 6 回実施する体制となった。また、統計検定統計調査士対策として、これまで実施してきたセミナーのオンデマンドコンテンツ化も進めた。具体的には、『日本の公的統計・統計調査』および『統計調査士得点源問題集』などの教材を基礎としたセミナー 3 回分のうち、第 1、3 回セミナーのオンデマンド化を完了した。こうした取組により、継続的かつ柔軟な学習機会の提供を実現している。

（５）2025 年度事業を振り返って

オンデマンド授業が軌道に乗り、セミナーも予定通り進めることができた。経済学部池上先生から資料を預かり、内容を厳選して特に貴重なものについて CSI の歴史的資料に加えた。

2) 社会調査部会

2025 年度事業計画 2025 年度のテーマ：他機関との連携とアーカイブデータの活用

(1) 社会調査データアーカイブ (RUDA) プロジェクト

1) データ整備・提供業務

- 2024 年度までに、寄託されたデータセットのうち 78 データをクリーニングし、公開した。2025 年度では、さらに 3 データセットをクリーニングする。
- 立教大学の社会調査士科目 G (社会調査を実際に経験し学習する科目) で蒐集された、量的な社会調査データを対象に RUDA への寄託伺いを行い、寄託されたデータを収集し、公開する。

2) RUDA データの利用促進に向けた取り組み

- 社会調査活用セミナーの開催：RUDA データの教育・研究利用をさらに促進するため、データの利活用に関するセミナーを開催する。将来的にはアーカイブ探索に関する Web コンテンツの作成や、データ利用初心者でも活用しやすいようサービスの整理を行い、より広範な RUDA データの利用に向けた基盤構築につなげることを想定している。
- RUDA を中心としたデータアーカイブの利活用をテーマとするセミナーを年に 1 回行う。とりわけ、2025 年度は昨秋 JAIRO Cloud 移行に伴い改修された RUDA の利活用に関する周知を行う。
- RUDA データを利用した二次分析のやり方に関するセミナーを年に 2 回行う。
- 社会調査を利用した研究について情報収集を行い、既存データ利用の可能性について見識を深め、RUDA の広報に還元する。その一環として、先進的な研究発表が行われる国際学会に参加する。

3) アーカイブ事業の協力体制

- DDI を基盤として、国内外アーカイブとの連携事業を行い、より広範な二次利用環境の整備、そしてアーカイブ事業に関わる研究協力基盤の構築を行う。具体的には以下の 2 つの事業を行う。
 - 相互検索システムの構築：RUDA と国内外アーカイブでそれぞれが所有しているデータを一元的に検索することができるシステムを構築し、網羅的・効率的なデータ検索環境の整備を行う。
 - 研究協力基盤の構築：データアーカイブ運営の在り方をテーマとする研究基盤を国内外アーカイブとの共同のもと整備し、国内アーカイブ水準の改善に向けた研究発信を行う。そのために、先進的な研究発表が行われる国際会議にて海外アーカイブ事情を確認し、改善案を模索する。

(2) 社会調査士資格関連事業

1) 社会調査士・専門社会調査士科目申請の支援

組織会員として加入している社会調査協会に対し、学内における一元的な連絡責任者として、学部・研究科内の学内連絡責任者と連携して社会調査士・専門社会調査士カリキュラムの科目申請事務を行う。また、学部・研究科が設置する資格対応科目の認定申請に関する相談受付などの諸支援を行う。

2) 社会調査士・専門社会調査士取得申請の支援

教務事務センターと連携して学部学生・大学院学生の社会調査士・専門社会調査士資格取得支援体制を整備し、取得希望者に対する相談・申請の受付業務を行うとともに、資格申請に関する学内広報を行う。また、

教務事務センターと連携して 2012 年度より導入した指定科目証明書発行システムの運用を通じ、資格取得相談から申請までの一貫した窓口業務を提供する。

（３）その他対外連携事業

- 1) ICPSR（Interuniversity Consortium for Political and Social Research）の国内利用協議会を通じた会員機関として、その所蔵データ利用の学内広報につとめる。
- 2) ICPSR 本部が実施するサマープログラム（セミナー）、および ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報につとめる。

（４）社会調査フォーラムの開催

統計的社会調査の理論と方法に関する実践例の紹介を企図とするセミナー（社会調査フォーラム）を、1 回以上開催する。具体的には、外部から社会調査の経験がある研究者を招聘し、社会調査の実際をテーマとする研究会の開催を通して、その理論や方法を広く学ぶ機会を設ける。または、社会調査データを活用している実務家をお招きし、活用に至った経緯やその実践と意義に関する講演会を開催する。

（５）社会調査に関わるコンサルティング事業

- 1) 学内研究者と大学院学生に対し、社会調査の企画・設計に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。
- 2) 学内部局に対して、社会調査の企画・設計の諸方法に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。

2025 年度事業報告

(1) 社会調査データアーカイブ (RUDA) プロジェクト

立教大学社会調査データアーカイブ (Rikkyo University Data Archive: RUDA) は、研究目的や教育目的の二次分析のため、以下のとおりデータセットを公開している。2025 年度はデータセットを新たに公開した。現在、累計のデータセットが公開されている。

〈2025 年度 公開データセット：3 件〉

公開日	調査名
2025 年 7 月 7 日	若者の都市的生活様式とパーソナリティに関する都市社会学的調査 (RUDA0091)
2025 年 12 月 11 日	日常生活や規範についての意識と行動に関する調査 (RUDA0090)
2026 年 1 月 14 日	健康と社会生活に関する調査 (RUDA0093)

(2) セミナー・各種イベント開催

2025 年度は以下のセミナーを開催した。

◆CSI 社会調査データ活用セミナー

〈第 1 回〉

テ ー マ：社会調査データの使い方・探し方～データアーカイブ活用法～

開催日時：2025 年 6 月 12 日 (木) 17:30～19:00

場 所：Zoom オンライン

講 師：御手洗 由佳 (社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：9 名

〈第 2 回〉

テ ー マ：社会調査データの解析①～クロス集計と相関分析～

開催日時：2025 年 11 月 13 日 (木) 17:30～19:00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8301 教室

講 師：御手洗 由佳 (社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：13 名

〈第 3 回〉

テ ー マ：社会調査データの解析②～回帰分析～

開催日時：2025 年 11 月 27 日 (木) 17:30～19:00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8301 教室

講 師：池田 岳大 (社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：7 名

◆第 15 回社会調査フォーラム

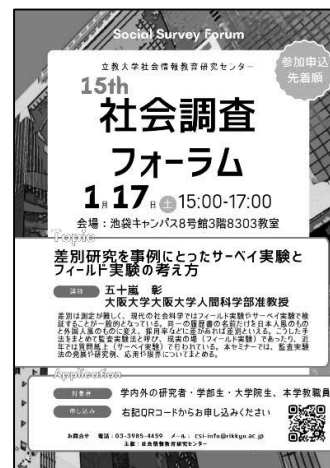
テ ー マ：差別研究を事例にとったサーベイ実験とフィールド実験の考え方

開催日時：2026 年 1 月 17 日（土） 15：00～17：00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8303 教室

講 師：五十嵐 彰 氏（大阪大学人間科学部准教授）

参加人数：24 名（学内学生・教職員 6 名、学外学生・教職員 18 名）



（3）2025 年度事業を振り返って

今年度は上記の通常業務に加えて、2024 年 9 月の RUDA システム改修・移行に関連して、RUDAFP の細かな修正や、新たな広報として電子マニュアルの URL を付した葉の作成などに注力した。そのなかでも、東京大学社会科学研究所と行ったデータアーカイブに関する情報交換や、ESRA への参加等を通じて、国内外機関のデータアーカイブの動向等を知る機会を得た。後者に関しては、『社会と統計』第 12 号に資料論文として掲載をし、情報発信にも努めた。

来年度は新たな組織体制のもと、RUDA の広報を強化することや他機関との連携の模索など、より効率的かつオープンな運営を行いたい。

また、社会調査フォーラムでは、前年度までは特定の統計分析手法を実行するための R や Stata のコマンドに関する講演を実施していた。しかし、近年の AI の発展によりコード作成の手間が大幅に縮小したことを受け、方向性を見直し、サーベイ実験やフィールド実験の注意点や具体的な研究への応用例を紹介する形式へと変更した。これらの内容は好評であり、2026 年度以降も同様の方向での実施を検討していきたい。

3) 統計教育部会

2025 年度事業計画

- (1) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営
『社会調査入門』の管理・運営
『データ分析入門』の管理・運営
『社会調査の技法』の管理・運営
『データの科学』の管理・運営
『多変量解析入門』の管理・運営
『データサイエンス入門（仮）』の管理・運営
『データサイエンス応用（仮）』の管理・運営
『Introduction to Statistics 1』の管理・運営
『Introduction to Statistics 2』の管理・運営
『Introduction to the Social Survey』の管理・運営
『Introduction to Multivariate Analysis』の管理・運営
これら 11 科目の詳細は「オンデマンド授業」をご参照ください。
- (2) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業用教材の評価と検証
受講生の学習履歴データ、モニター学生からのコメントなどをもとに、オンデマンド授業用教材を評価・検証する。
- (3) データサイエンス副専攻の支援ならびに数理・データサイエンス・AI 教育プログラムへの認定申請
データサイエンス副専攻の支援ならびに数理・データサイエンス・AI 教育認定プログラムへの認定申請準備を行う。
- (4) CSI 統計セミナー、統計検定対策セミナーの開催
統計検定合格水準の統計学に関する知識と活用力を身に着けるためのセミナー、および統計検定の受検ガイダンスを実施する。
- (5) 統計学習のための教材およびプログラムの改修および開発
社会から求められる人材育成のための教育プログラムや教材を開発・改修する。
『データサイエンス入門（仮）』と『データサイエンス応用（仮）』新規二科目の教材開発を行う。
- (6) 統計教育フォーラム・公開講演会の開催
社会調査や統計関係の科目担当者向けの FD を行う場としての統計教育フォーラムや統計教育の開発や推進のための公開講演会の開催。
- (7) 学外統計教育関連行事への共催や後援
WAPOR（World Association for Public Opinion Research）Asia Pacific 8th Annual Conference の共催や、スポーツデータ解析コンペティションをはじめとする学内外での統計教育関連の事業への関与を通じ、社会的貢献を行う。
- (8) 高大連携プログラムの開催実施
統計やデータ活用に関する高大連携プログラムの開発と実施を行う。

2025 年度事業報告

(1) オンデマンド授業・セミナー等について

◆全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営

受講者数は下記の通り、その他の詳細は別途記載している。

1. 『社会調査入門』 受講者数：215 名
2. 『社会調査の技法』 受講者数：204 名
3. 『データ分析入門』 受講者数：218 名
4. 『データの科学』 受講者数：218 名
5. 『多変量解析入門』 受講者数：167 名
6. 『データサイエンス入門』 受講者数：202 名
7. 『データサイエンス応用』 受講者数：78 名
8. 『Introduction to Statistics 1』 受講者数：207 名
9. 『Introduction to Statistics 2』 受講者数：204 名
10. 『Introduction to the social survey』 受講者数：91 名
11. 『Introduction to Multivariate Analysis』 受講者数：40 名



◆CSI 統計分析セミナー

CSI 統計分析セミナーは Canvas LMS を通じて配信するオンデマンド型のセミナーである。既存の SPSS 統計解析 (Basic コース/SEM コース) および R 統計解析 (基本コース/多変量解析コース) に加え、2018 年度からは統計検定対策セミナーコースの配信を行っている。

【現在公開中のコース】

1. SPSS 統計解析 (Basic コース)

統計解析ソフト SPSS に関する基本動作を習得し、簡単な統計処理を行うための技術を身に着ける。また同時に、関連する統計学の基本的な事項についても学習する。基本統計量に加え、質的変数、量的変数に焦点を絞り、これらの変数を適切に集計、解析をできるレベルの操作を行う。

講師：大橋 洸太郎

(元 社会情報教育研究センター 助教)

登録者数：266 名

2. SPSS 統計解析 (SEM コース)

統計解析ソフト Amos に関する基本動作を習得し、SEM によるモデル構築と分析結果の確認を行うための技術を身に着ける。また同時に、一般的によく用いられるモデルの紹介を行い、それらの分析を通してモデル構築や評価に習熟する。

講師：大橋 洸太郎

(元 社会情報教育研究センター 助教)

登録者数：93 名

3. R 統計解析 (基本操作コース)

統計解析環境 R の動作に関して、R の起動からデータの保存、終了の仕方などの基本操作に習熟する。また、スクリプトの書き方を通じて、簡単なデータハンドリングの技術を身に着ける。

講師：大橋 洸太郎

(元 社会情報教育研究センター 助教)

登録者数：213 名

4. R 統計解析 (基本操作コース 2)

- ・ R を使って 1 変数の集計ができるようになる。
- ・ R を使って 2 つの質的変数の関係性を把握する。
- ・ R を使って 2 つの量的変数の関係性を把握する。

講師：大橋 洸太郎

(元 社会情報教育研究センター 助教)

登録者数：79 名

5. R 統計解析（多変量解析コース1）

第1回 R/R Studio の使い方

第2回 重回帰分析

第3回 分散分析（1, 2 要因参加者間実験）

講 師：大橋 洸太郎

（元 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：99 名

6. R 統計解析（多変量解析コース2）

第1回 R/R Studio で因子分析

第2回 R/R Studio でクラスター分析

第3回 これまでのまとめ（春学期/秋学期）

講 師：大橋 洸太郎

（元 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：78 名

7. R による統計分析

目標：R の基本事項、1 変量や 2 変量の分析手法、そして、様々な多変量解析の手法を習得する

内容：

R の導入：統計解析のための R 環境の準備について解説します。

R の基本操作：R におけるデータ処理の方法について解説します。

R で基礎分析：1 変量から 2 変量までの分析手法について解説します。

R で多変量解析：多変量の分析手法について解説します。

登録者数：15 名

8. 統計検定対策セミナー

●オリジナルテキスト

●動画（以下 18 コンテンツ）

・1 変数データの要約 ・2 変数データの要約 ・離散型確率変数 ・様々な離散型確率変数 ・連続型確率変数

・様々な連続型確率変数 ・推定 ・母平均の区間推定 ・母比率の区間推定 ・母分散の区間推定

・仮説検定とは、母比率の検定 ・母平均の検定 ・母平均の差の検定 ・適合度検定、独立性の検定 ・分散分析

・単回帰分析 ・重回帰分析 ・数表の読取り方

講 師：渡辺 健太郎（元 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：147 名

◆統計検定ガイダンス・受験対策セミナー

社会情報教育研究センターでは、統計学習のサポートとして、対面での統計検定ガイダンスや受験対策セミナーを実施している。2025 年度は対面での受験対策セミナーは行わず、ガイダンスは春学期（5 月 8 日）にのみ行った。Canvas LMS における CSI 統計検定対策セミナーは、統計検定 2 級および 3 級の試験対策として、テキスト及び動画を配信した。

◆機械学習セミナー（公開講演会）

開催日時：2025 年 10 月 23 日（木）17:10～18:50

場 所：池袋キャンパス 5 号館 5402 教室

講 師：齋藤恵一 氏、黒岩美幸 氏（総務省統計委員会担当室・室長補佐）

テ ー マ：生活満足度を左右する要因を探る：機械学習と統計手法の連携事例

対 象：本学学生、教職員、校友、一般

◆セミナー

開催日時：2025 年 8 月 7 日（水）14:30～16:30

場 所：池袋キャンパス 6 号館 2 階 6205 教室

講 師：渡辺 健太郎（東北学院大学 人間科学部 准教授）

テ ー マ：R によるデータ分析入門

◆公開研究会

開催日時：2025 年 3 月 12 日（木）14:30～15:20

場 所：池袋キャンパス 6 号館 2 階 6401 教室

講 師：鶴島 元樹氏（総務省統計局統計調査部消費統計課 情報解析係 係長）

テ ー マ：オルタナティブデータを利用した公的統計の予測・早期化に関する研究

対 象：本学学生、教職員、校友、一般

参加者：3 名

◆高校生向け統計教育セミナー

2025 年 7 月 23 日に立教女学院高等学校 3 年生向けのプログラムを実施した。

（2）共催・後援セミナー等

◆各種コンペティション

統計教育部会では、各種コンペティションへの参加を希望する、立教大学の学生を支援する体制を整えている。2025 年度は、CSI のホームページ上で、「第 8 回統計データ分析コンペティション」や「第 9 回和歌山県データ利活用コンペティション」、「マーケティング分析コンテスト 2025」等のコンペティションについての告知を行った。

◆職員向け情報リテラシー研修

昨年度に引き続き 2025 年度も、教務部より依頼を受け、本学職員に向けた統計研修を行った。

開催日時：2025 年 5 月 28 日（金）9：00～13：00

主 催：本学人事課

場 所：8403 教室

講 師：山口 和範（経営学部 教授）

テ ー マ：客観的なデータを分析・整理して、裏付けとする能力を養う

対 象：本学職員

（3）データサイエンス副専攻支援

データサイエンス副専攻に関する案内を掲載した NEWS LETTER（Vol.15、Vol.16）を発行した。

（4）2025 年度事業を振り返って

メディアセンターや教育研究コーディネーターのサポートもあり、2025 年度もオンデマンド授業やセミナー等のコンテンツが問題なく提供されている状況にあるといえる。また本年度は、実習形式のセミナー「R に

よるデータ分析入門」や公開講演会「生活満足度を左右する要因を探る」、公開研究会「オルタナティブデータを利用した公的統計の予測・早期化に関する研究」を開催したのに加え、2025 年 11 月には日本世論調査協会と社会情報教育研究センターの共催で、WAPOR（World Association for Public Opinion Research）Asia Pacific 8th Annual Conference を開催した。そのため、学内外に向けて、統計教育の充実に資する活動を行うことができたと考えられる。今後も様々な連携の下、統計教育部会での統計教育の質保証と一層の充実のための活動を継続する。

3 資格支援事業

1) 社会調査士

「社会調査士」と「専門社会調査士」は、いずれも一般社団法人社会調査協会が認定するものであり、社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的として作られた資格である。

社会情報教育研究センターでは、社会調査部会の助教が資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科すべての連絡責任者となり、学生の資格取得や各学部・学科の認定科目申請の支援を行うなど、立教大学内の社会調査士資格に関する窓口業務を担っている。

◇社会調査士・専門社会調査士 資格制度参加学部・研究科

- ・全学共通カリキュラム運営センター（オンデマンド授業）
- ・社会学部 全学科
- ・経済学部 全学科
- ・経営学部 全学科
- ・コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
- ・現代心理学部 心理学科
- ・大学院 社会学研究科
- ・大学院 コミュニティ福祉学研究科

〈資格申請〉

2025 年度の社会調査士・社会調査士（キャンディデイト）・専門社会調査士の資格申請・資格取得者数は以下の通りである。

社会調査士 資格申請者数：78 名（2026 年 3 月申請分）

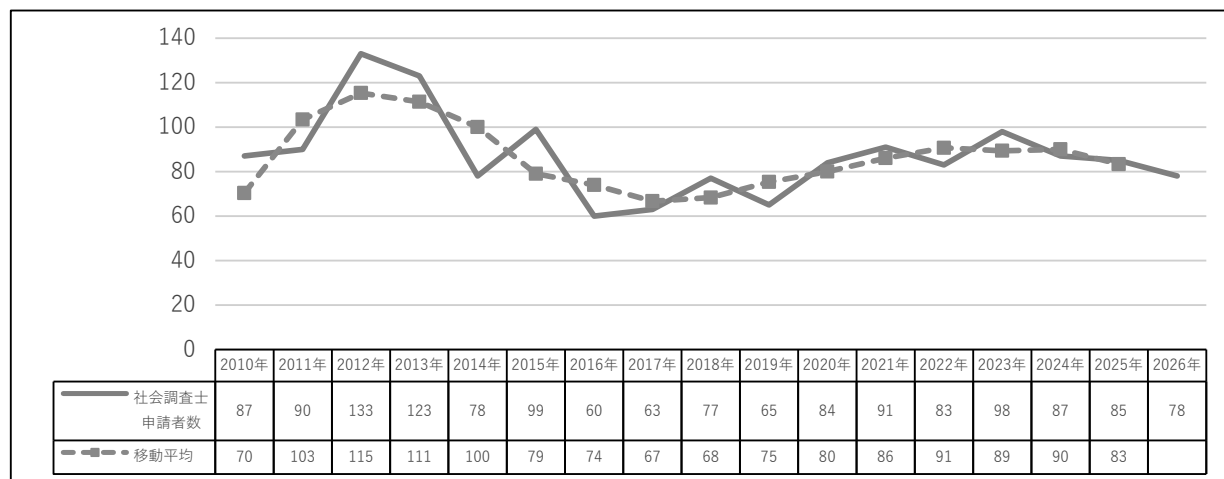
専門社会調査士 資格申請者数：2 名（2026 年 3 月申請分）

社会調査士（キャンディデイト）資格取得者数：99 名（春学期 70 名・秋学期 29 名）

（2026 年 3 月 31 日時点）

◆ 本学における社会調査士資格ならびにキャンディデイト資格申請の推移

【社会調査士申請者数の推移（2026 年 3 月）】

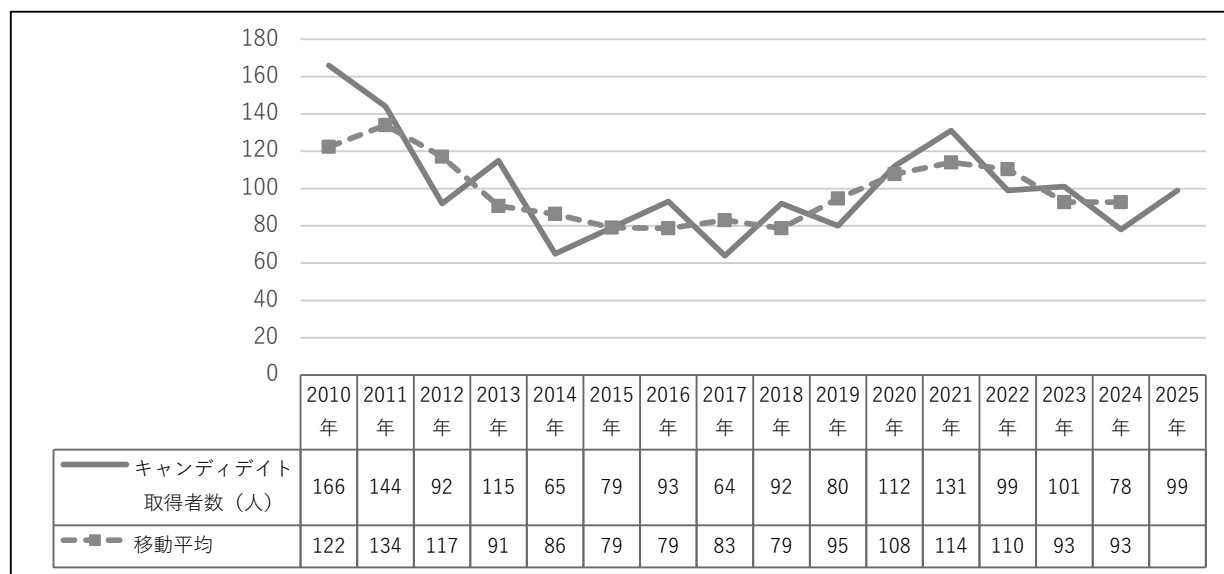


【学部学科別社会調査士・専門社会調査士申請者数（2026 年 3 月）】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ 福祉学部 コミュニティ 政策学科	現代心理学部 心理学科	合計	大学院			合計
	現代文化 学科	社会学科	メディア 社会学科						社会学研究科	コミュニティ 福祉学研究科	社会デザイン 研究科	
2026年春 (本申請)	11	11	4	14	0	19	19	78	0	1	1	2

上記のグラフは、2010 年度から 2025 年度までの社会調査士の申請者数の推移、移動平均を示したものである。また、2025 年度学部学科別の社会調査士、および専門社会調査士の申請者数は上記表のとおりである。

【社会調査士（キャンディデイト）取得者数の推移】



本学における社会調査士資格のキャンディデイト取得者数は、上記の表のとおり推移している。2010 年度に教務事務センターより窓口業務が移管され、社会情報教育研究センターでの申請受付が始まった。2025 年度のキャンディデイト取得者数は 99 名で、前年度に比べると 21 名の増加となった。

【2025 年度学部学科別 社会調査士（キャンディデイト）取得者数】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	現代心理学部 心理学科	その他の 学部・研究科	合計
	社会学科	メディア 社会学科	現代文化 学科						
2025年10月認定者数 (春学期申請)	8	4	6	2	1	20	29	0	70
2025年12月認定者数 (秋学期申請)	6	0	2	8	0	8	5	0	29
合計	14	4	8	10	1	28	34	0	99

上記の表は、2025 年度の学部学科別の社会調査士（キャンディデイト）取得者数の学部・学科別の内訳を示している。

社会学部では他学部に比べて社会調査士科目を取得しやすいカリキュラム設計がされているため、毎年一定数の学生がキャンディデイトを取得している。2025 年度は前年度と比較してコミュニティ福祉学部が 16 名から 28 名、現代心理学部が 23 名から 34 名へと増加したことで、ほぼ例年通りの水準へと回復している。

〈科目申請〉

Google ドライブを活用して、各学部・学科・研究科への説明書類の配布、及び各学部から申請科目の情報収集を行っている。2025 年度は資格取得対応カリキュラムを導入する全学部・学科・研究科合計で 127 科目の認定を受けた。また 2026 年度の対応科目として 121 科目の申請手続を 2025 年 12 月に行い、2025 年 3 月に 121 科目の認定を社会調査協会より受けた。2026 年度に開設された環境学部から新しく 3 科目を申請し、認定された一方、社会学部メディア社会学科開講の科目に申請漏れがあったことにより、認定科目数も減少している。メディア社会学科の申請漏れ科目は 2026 年 12 月の申請期間に過年度申請する予定である。

2) 統計検定

一般財団法人統計質保証推進協会主催による統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施されている試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけられている。社会情報教育研究センターでは 2011 年度より受験の案内から統計検定対策セミナー開催に至るまで、統計検定受験者に対する一元的な支援を行ってきたが、会場でのペーパーベースの試験（PBT）からコンピューターによる試験（CBT）に移行が進んでおり、会場提供の支援は現在行っていない。

4 教育支援事業

1) 正課科目の開発・提供

2025 年度も引き続き全学共通カリキュラムのオンデマンド授業「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」・「Introduction to Statistics1」・「Introduction to Statistics2」・「Introduction to the Social Survey」・「Introduction to Multivariate Analysis」の運営を行った。なお、これら 9 科目は社会調査士資格認定科目となっている。また秋学期より新たに「データサイエンス入門」「データサイエンス応用」を開講・運営した。

◆社会調査入門

【担当者】 池田 岳大（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 御手洗 由佳（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 215 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to the social survey

【担当者】 池田 岳大（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 御手洗 由佳（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 91 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆社会調査の技法

【担当者】 安東 慶太（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 則竹 悟宇（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査の技法的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

【受講者数】 204 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データ分析入門

【担当者】 安東 慶太（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 則竹 悟宇（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 218 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Statistics 1

【担当 者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育 コーチ】 なし

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講 者数】 207 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データの科学

【担当 者】 安東 慶太（社会情報教育研究センター 助教）

【教育 コーチ】 則竹 悟宇（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講 者数】 218 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Statistics 2

【担当 者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育 コーチ】 なし

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講 者数】 204 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆多変量解析入門

【担当 者】 小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

【教育 コーチ】 香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講 者数】 167 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Multivariate Analysis

【担当 者】 小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

【教育 コーチ】 香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講 者数】 40 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データサイエンス入門

【担当者】 則竹 悟宇（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 今日では情報通信技術の普及により大量のデータが収集・蓄積されているが、それらは活用されなければ意味をもつ情報とならない。このようなデータを対象とする学問分野がデータサイエンスである。本授業では、データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎と、データサイエンスの応用事例を修得し、さらに機械学習の概念を学んで、データサイエンスの果たす役割を概観できることを目的とし、次の3点ができるようになることを目指す。(1) データの基本的な分析方法を知り、コンピュータを用いて実践することができ、(2) データサイエンスの応用事例を知り、現実の課題に対するデータサイエンスの役割を述べることができ、さらに(3) 機械学習の基礎を知り、その可能性と限界について考えることができる。

【受講者数】 202名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データサイエンス応用

【担当者】 則竹 悟宇（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 現代社会において、データサイエンスや人工知能(AI)は欠かすことのできない技術となっているが、ここではデータサイエンスおよびAIのこれまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景を理解し、今後、特にAIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を理解する。さらに、自らの専門分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理についても理解する。また具体的な分析手法として、機械学習（教師あり学習、教師なし学習）、深層学習、強化学習の基本的な概念を理解する。さらに近年注目されている生成AIの基礎的な概念を理解し、自らの専門分野での応用について考えることができることを目指す。

【受講者数】 78名

授業内容はシラバスを参照のこと。

2) 各種コンテンツの開発および改修

◆R教材の開発、公開

LMSのセルフラーニングコンテンツ（「R統計解析（基本操作コース）」、「R統計解析（基本操作コース2）」、「R統計解析（多変量解析コース1）」、「R統計解析（多変量解析コース2）」）をベースとして、VOICEPEAKによる自動音声の調整作業や教材の追加等を行ってきた。完成したオンデマンドR教材は、新規コース「Rによる統計分析」として、2025年4月1日より公開中である。

5 研究支援事業

1) 調査研究コンサルティング

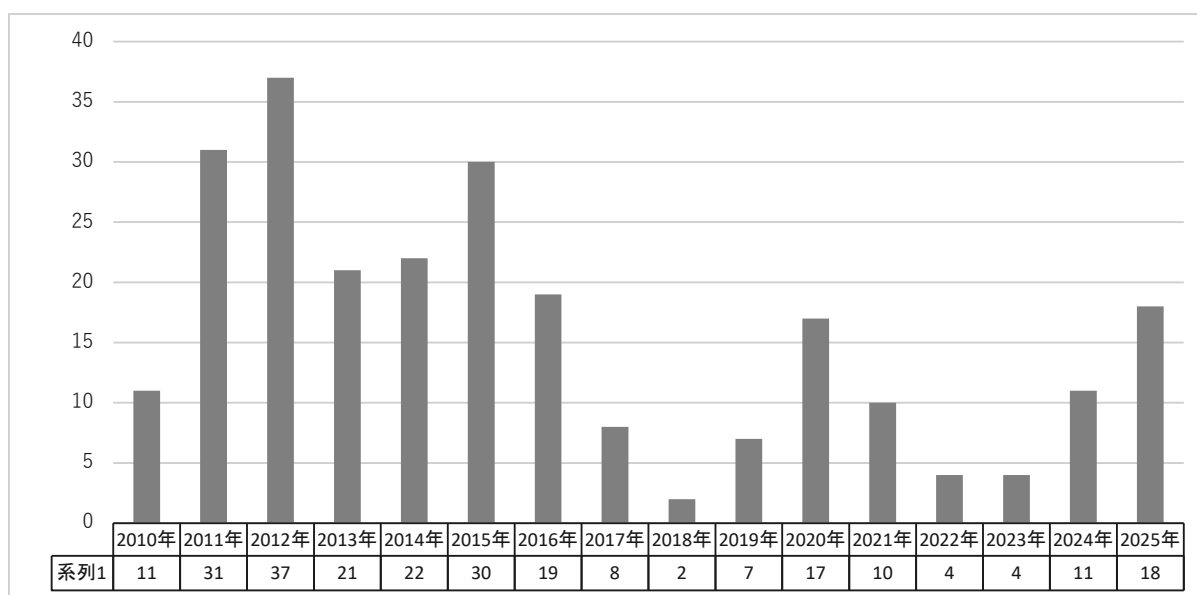
社会情報教育研究センターでは、立教大学の大学院学生や教職員を対象に調査研究に関するコンサルティングを行っている。主な相談内容は、学内アンケートや社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計分析に関する相談である。多くは一回にとどまらず、その後の調査経過も含めて継続的なコンサルティングとなっている。

2025 年度のコンサルティング応談件数は 18 件であった。教員からの依頼が 4 件、院生からの依頼が 14 件であり、それぞれ依頼のあった大学院学生、教職員の所属元は以下の通りである。なお、同一の相談者から複数回の依頼があった場合も件数ごとにカウントしている。

【2025 年度 社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数】

学部・研究科	教員	院生	総計
社会デザイン研究科（旧 21 世紀社会デザイン研究科）		6	6
ビジネスデザイン研究科		8	8
経済学研究科	1		1
異文化コミュニケーション研究科	2		2
学校・社会教育講座	1		1
総計	4	14	18

【社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数 年度別推移】



2) 対外連携活動

◆社会調査協会

一般社団法人社会調査協会と連携して同協会が実施する S 1 科目、S 2 科目などの講習会事業の開催協力を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の流行以降は対面での講習会は中止され、2022 年度からオンライン開催がメインとなっている。

2025 年度もオンラインでの開催となったため、対面を前提とした開催協力は行わなかった。

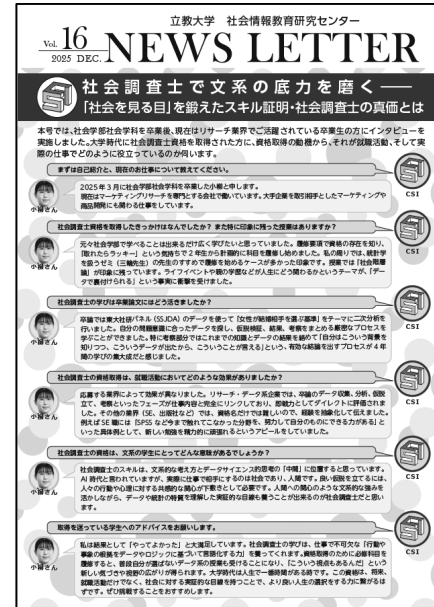
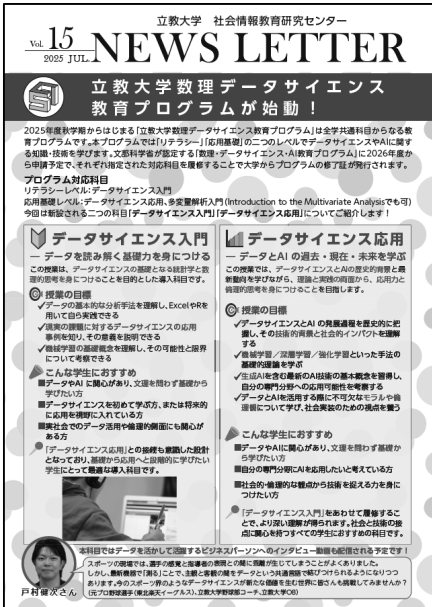
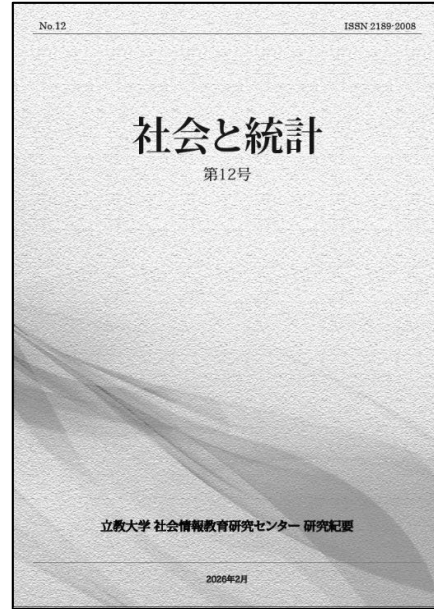
◆ICPSR（本部および国内利用協議会）

ICPSR（Inter-university Consortium for Political and Social Research：政治・社会調査のための大学間コンソーシアム、本部：ミシガン大学 社会調査研究所）は、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集・保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する世界最大級のデータアーカイブである。立教大学は、国内利用協議会（ハブ機関：東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター）を通じて加盟している ICPSR の会員機関である。

社会情報教育研究センターでは、2025 年度も ICPSR のデータアーカイブ機能の利用についての学内広報、およびサマープログラムの学内告知を行った。ICPSR 本部によるサマープログラムは現地参加とオンラインのハイブリッド形式となったが、本大学からの参加者はなかった。また、毎年 ICPSR 国内利用協議会が実施する国内統計セミナーについては、2021 年度以降オンライン形式での開催となっており、2025 年度もオンラインでの実施となった。

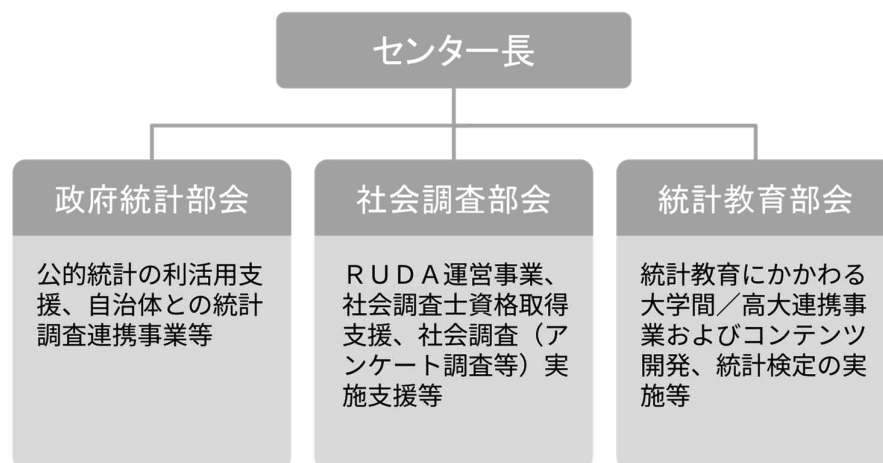
6 出版物

- 『日本の公的統計 第4版』（2025年11月発行）
- 社会情報教育研究センター研究紀要『社会と統計』（第12号）
- NEWS LETTER (Vol. 15、 Vol. 16)



7 組織図および構成メンバー

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



■センター長

砂川 浩慶（社会学部 教授）

《政府統計部会》

政府統計部会

■部会リーダー

櫻本 健（経済学部 准教授）

■部会メンバー

安藤 道人（経済学部 教授）

小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

金子真太郎（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

川波 賢太（社会情報教育研究センター 学生アルバイト）

■研究協力者

濱本 真一（日本大学文理学部社会学科准教授）

菊地 進（立教大学名誉教授）

小野寺 剛（九州国際大学現代ビジネス学部地域経済学科教授）

倉田 知秋（富山短期大学准教授）

西林 勝吾（大正大学地域創生学部地域創生学科専任講師）

《社会調査部会》

■部会リーダー

三輪 哲（社会学部 教授）

■部会メンバー

水上 徹男（社会学部 特別専任教授）

高木 恒一（社会学部 教授）

中澤 渉（社会学部 教授）

川畑 泰子（社会学部 准教授）

片上 平二郎（社会学部 教授）

池田 岳大（社会情報教育研究センター 助教）

御手洗 由佳（社会情報教育研究センター 助教）

宮澤 篤史（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

山中 惇史（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

小松 恵（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

長谷川 昌美（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

《統計教育部会》

■部会リーダー

山口 和範（経営学部 教授）

■部会メンバー

田中 聡（経営学部 准教授）

安東 慶太（社会情報教育研究センター 助教）

則竹 悟宇（社会情報教育研究センター 助教）

《社会情報教育研究センター事務局》

木田 英樹（情報企画室 課長）

兼築 弥和（情報企画室 課員）

藤谷 貴樹（情報企画室 課員）

千野 愛実（情報企画室 課員）

佐藤 裕亮（社会情報教育研究センター 教育研究コーディネーター）

梅垣 緑（社会情報教育研究センター 教育研究コーディネーター）

笹沼 みずほ（社会情報教育研究センター事務局）

本田 邦子（社会情報教育研究センター事務局）

